

# がんセンターだより

第 24 号

平成22年3月31日発行

発行  
埼玉県立がんセンター  
発行責任者  
病院長  
布施 嘉亮

基本  
理念

“唯惜命”

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、十分な医療情報提供と患者さんの自己決定権を尊重し博愛と奉仕の精神で医療を行います。

## 患者さん、御家族の想いに寄り添ったケアを

埼玉県立がんセンターでは、医師、看護師、コメディカルなど医療スタッフはじめ事務局を含めた全職員が一丸となって「日本一患者さんにやさしい病院づくり」をモットーに日々励んでいます。

がんの患者さんは不安や悲しみを抱きながら、健康を回復するために様々な治療を受けています。その一方で患者さんが生活の中で音楽や笑い、人々とのふれあいを持つことは免疫力を高め、がんの痛みを軽減し健康の促進に良い影響を及ぼすといわれています。

そこで私どもは患者さんの心やお気持ちに寄り添ったサービスの提供をしたいと考え、以前から当センターで開催されているボランティアさんによる音楽コンサートの活性化に取り組みました。この取組では職員が中心となって、より多くの患者さんや御家族の皆様が心から音楽を楽しみ、安心して参加いただけるよう、様々な改善・工夫に努めました。

患者さんや演奏者が音楽に集中していただけるよう、看護師や事務局職員を会場に配置し、環境や安全に特に配慮しました。例えば会場の空調温度を細やかに調整する、冬場にはお身体が冷えないように膝かけをお渡しする、点滴をしながらいらっしゃる患者さんにはその状態、様子を確認するなど、会場の患者さんひとりひとりに気を配りました。

また、以前はボランティアさん御自身にお願いしていた開催のお知らせやPRを、病院側がお引き受けし、院内各所へのポスター掲示や当日の御案内など、多くの方にコンサートへ足を運んでいただくきっかけ作りに努めました。

一方、演奏いただくボランティアさんの側でも、クラシックや歌謡曲、唱歌から童謡に至るまで多くの方に幅広く楽しんでいただけるよう、選曲に工夫、御配慮をしていただきました。特にクリスマスの時期には私どもと共同企画でスペシャルコンサートとして盛大に開催し、皆様と共にその時期や季節を味わえるような雰囲気作りにも取り組みました。

その結果、コンサートにお越しいただく方の数が以前の約3倍に増え、演奏のボランティアさんからもコンサートの回数を増やしていただくことができました。御来場いただいた皆様からは、「生の演奏を聴いていっぱい泣きました」など、数多くの感謝のお言葉をいただくことができました。

これらの取組を通して、私どもは埼玉県職員の職場・業務改善運動である『埼玉県3Sカイゼン運動』の最優秀カイゼン賞を受賞することができました。この受賞は、こうした私どもの取組が、目標である「日本一患者さんにやさしい病院」へ一歩近づくことができたことと多くの方から評価されたものと考えております。

このコンサートは、定期で隔週火曜日に開催されるピアノとバイオリンの演奏をはじめ、不定期でも様々な演奏が行われております。場所は本館1階、売店わきの講堂にて、時間は13時からとなっております。詳細につきましては院内の掲示板を御覧いただくか、または事務局職員までお問い合わせください。

今後もこうした取組を通して、全職員が患者さんの心に寄り添ったケアをすることができるよう、「日本一患者さんにやさしい病院」を目指してさらに努力してまいります。



事務局長  
寺田 賢

### 目次

- 患者さん、御家族の想いに寄り添ったケアを…………… 1
- 婦人科紹介…………… 2
- 新しい発がん予防につながる大腸がん抑制機構について…………… 3
- 第34回がんの集いを終えて…………… 4



埼玉県のマスコット  
コバトン

## 婦人科紹介

埼玉県立がんセンター婦人科は、現在常勤医師5名と非常勤医師2名（1名は週1回の外来、1名はレジデント）で、日々婦人科がんの診療に当たっています。扱う婦人科がんの初回治療患者さんの数は、毎年250～300人に上ります。内訳は子宮頸がん160人（上皮内がん80人程度・1期以上のがん80人程度）、子宮体がん60～70人、卵巣がん30～40人等となります。特に、子宮頸がん・子宮体がんの治療例数は全国の施設の中でも10指に入り、現在の医師スタッフの数ではかなり忙しく働かざるを得ない状況です。しかし、医師スタッフは全員が日本産科婦人科学会専門医を、また内4名が日本婦人科腫瘍学会専門医を取得しているのに加え、何より全員が婦人科がんの診療に強い情熱を持っていること、また当院には、同様に情熱と意欲を持った看護師はじめ強力なコメディカルスタッフがあることは強みだと考えています。現実には多くの患者さんの高水準の治療を行っていることは私たちの大きな誇りと自信となっていますが、私たちの目指すものは量を誇るのではなく、豊富な経験に裏打ちされたより質の高い診療です。そのために、婦人科がんの診療チームはミーティングを重ねて診療に当たっています。



婦人科  
科長兼部長  
横田 治重

さて、婦人科がんは女性のライフサイクルと深い関係を有する病気であり、近年の晩婚・少産傾向などの変化に伴って、子宮体がん・卵巣がんの増加傾向が明らかとなっていますが、子宮頸がんについても、減少傾向がここ10年来下げ止まり、20歳代など若年層での発症が増加に転じているのです。子宮頸がんはすべてのがんの中でも最もがん検診の有効性が高いものの一つであるにもかかわらず、検診受診率は欧米はもちろん韓国などアジアのいくつかの国に比べても著しく低率で、その結果検診で診断できる早期がんや前がん状態を乗り越えて、治療の負担が大きく再発・死亡率も高い病期での発症が目立つことは本当に残念なことです。当科の2007/2008の2年間の患者さんでも、早期がんやそれに準ずる微小浸潤癌の方の8割以上が子宮頸がん検診で見つかってきているのに対し、浸潤子宮頸がん（転移再発の心配のある1人前のがん）の方の8割以上は出血など症状があってから婦人科を受診されていました。皆様の中で子宮頸がん検診をお受けになっていないまたはしばらく受けていない方々は、どうか子宮頸がん検診に関心をお持ちいただき、周囲の女性もお誘いの上積極的に受けてくださるようお願いいたします。

一方、子宮頸がんがおこる仕組みは、1980年ころから急速に解明されつつあり、現在ではヒトパピローマウイルス（HPV）の子宮頸部への感染から始まる発がんの過程がかなり分かっています。HPVは性行為により感染するウイルスですが、いわゆる性病と異なり、HPVは非常に世の中に広く存在しており、感染しても症状がおこりにくく、結果として健康な女性の子宮頸部にも広く検出されます。すべての女性の7～8割の方が一生のうち一度はHPVに感染するといわれているのです。つまり多くの女性に子宮頸がん発がんのチャンスがあるというわけです。無症状の女性に検診を受けていただきたいのはこのためです。他方HPV感染と子宮頸がん発がんの関係の研究から、HPV感染を予防することで子宮頸がん発がんを予防する方法が実用化されてきており、わが国でもHPVに対するワクチンが発売されたとのニュースは記憶に新しいと思います。発がんを高率に予防するにはセクシャルデビュー前の女性に接種するのが効率的なので、当面の主たる対象は12～13歳くらいの女性となります。十分な効果を得るためには3回の接種が必要で、合計5万円前後の費用がかかりますが、埼玉県でも一部の自治体がこれらの年齢の女性への接種費用を全額負担することを始めつつあります。御家族内でも「減多にない予防できるがん」である子宮頸がんを話題にできたらどんなに素晴らしいことでしょう。

がんという病気の治療は難しく、必ずしも治癒という目的を達せられないことが多くあります。私たちは、そのような場合でも患者さんのために何ができるかを真摯に考えて診療に当たっていきたいと思います。

## 新しい発がん予防につながる大腸がん抑制機構について

### 1 はじめに

近年の大腸がん患者は増加傾向が著しく、毎年約10万人が新たに大腸がんと診断されています。この背景には食生活の変化により、動物性脂肪や高タンパク質中心の食事が影響しているといわれています。

がんは私たちの体を正常に維持するための司令塔である遺伝子の病気です。がんの発症に関係する遺伝子の多くは、私たちの体の基本単位である細胞の増殖を促進したり、逆に増殖を抑制する重要な働きをしており、正常な生命活動に必須なものです。

大腸がん発症のアクセル役（がん遺伝子）として $\beta$ -カテニン、ブレーキ役（がん抑制遺伝子）としてAPCが知られています。がん化原因物質によりこれらの遺伝子に傷が入ると、APCが破壊され、 $\beta$ -カテニンが異常に細胞に蓄積し、がん化が始まります。 $\beta$ -カテニンは正常な大腸組織の維持に必要ですが、異常蓄積すると発がんの引き金となります。APCは巧みに $\beta$ -カテニンを分解することにより正常なレベルに保っています（APC経路）。



臨床腫瘍研究所  
専門員

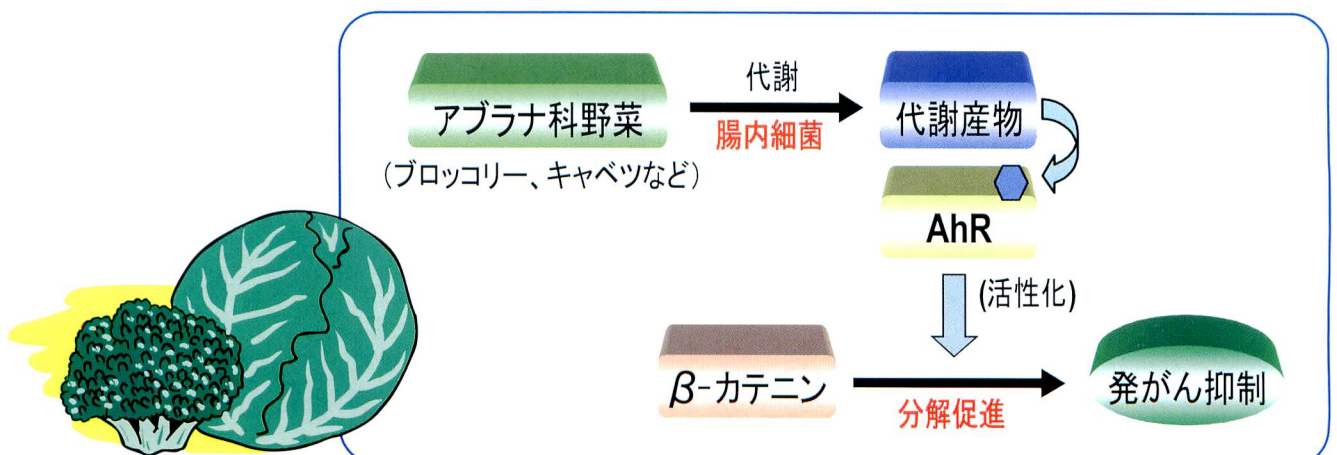
川尻 要

### 2 研究の概略

芳香族炭化水素受容体（AhRと略称）は、広く生物の細胞中に存在しており、タンパク質の合成や分解に関わる働きが知られています。今回、AhRは大腸がんを防ぐ働きがあることが明らかになりました。すなわち、APC遺伝子変異により腸にがんを多発するマウス（Minマウス）を、アブラナ科野菜（ブロッコリー、キャベツ、カリフラワーなど）に多く含まれる成分を含む飼料で飼育したところ、AhRの働きが促進され、がんの発生が顕著に抑制されることを見出しました。AhRはAPC経路とは異なるメカニズムで $\beta$ -カテニンを分解する働きがあることを（AhR経路）証明しました。一方、AhRを作ることの出来ないマウスでは大腸、主に盲腸部にがんが発生しました。

### 3 研究成果の意義

APC経路とは異なるAhR経路の活性化により $\beta$ -カテニン分解が促進され、大腸がん発生が抑制される機構を世界で初めて証明した研究であり、世界保健機構(WHO)などによる「アブラナ科野菜の摂取は大腸がんに対して予防効果がある」との提言に科学的根拠を与えるものです。自然界に存在するAhR活性化物質や人工的に設計されたAhRの働きを促進する物質によって、大腸がんの発生を効果的に予防できることが期待されます。（この研究業績により平成21年度埼玉県職員功績表彰を受けました。）



## 第34回 がんの集いを 終えて

がんセンター開設記念行事として毎年開催されている「がんの集い」。今回は「あなたをささえる がん医療」というテーマで12月5日(土)にがんセンターで開催しました。開催にあたり例年に引き続き、埼玉県医師会、埼玉県健康づくり事業団の御後援をいただきました。



バザー会場は大盛況でした！

講演会に先だち、11時30分からバザーを東館にて行いました。数多くの方にお越しいただき、我先にと会場へつめかけ、大盛況に終わりました。また、12時からは高度医療機器見学会を行いました。MR診断装置やリニアック装置等の高度医療機器を当センターの放射線技術部職員が紹介しました。こちらにも数多くの方にお越しいただき、皆さん興味深く説明に聞き入っていました。

13時からは講堂において講演会を開催しました。約150人の県民の方にご参加いただき、緩和ケア科の余宮のみ科長による「心と体をささえる緩和ケア」、赤坂和美認定看護師による「よりよく生きることをささえるがん看護～認定看護師の役割～」、吉原広和理学療法士による「さあ始めましょう!!がんのリハビリテーション」、武井牧子管理栄養士による「栄養面でのサポート」、白岡訪問看護ステーションの中村由美子所長による「いっしょなら大丈夫」に講演をしていただきました。各講演者熱が入りすぎて30分以上も延長となってしまいました。今回のテーマが「あなたをささえる がん医療」であることから、高度な医療に関する内容よりも、患者さんが「がん」と闘いながらも、いかにして「人間らしい生活」を過ごすことができるかというQOL(クオリティオブライフ)に重点が置かれていた講演会でした。来場者の方々が実際に医療現場で業務に就いている講演者の話を熱心に聞いている姿からは、県民の皆様のがん医療に対する関心の高さを実感しました。



皆さん熱心に講演を聞いていました！

講演会に引き続き行われたボランティアによるふれあいコンサートでは、石井様の素晴らしい歌声やピアノ、バイオリンの演奏に会場の皆様が酔いしれていました。最後の曲目では、自然と手拍子が起こり、会場が一体となってコンサートを楽しみました。

今回、御挨拶をいただいた埼玉県医師会長吉原忠男様をはじめ、お手伝いをいただいたボランティアの皆様、ご協力いただきありがとうございました。



### 交通のご案内

ニューシャトル丸山駅から徒歩5分  
JR高崎線上尾駅からバスで約15分  
JR宇都宮線蓮田駅からバスで約15分  
※交通事情により異なります。

## 埼玉県立がんセンター

住所 〒362-0806  
埼玉県北足立郡伊奈町小室818  
TEL **048-722-1111**  
FAX 048-722-1129  
URL <http://www.saitama-cc.jp/>

**診察日** 土・日・祝日・年末年始(12月29日から1月3日)を除く毎日。  
※診察科によっては診察をしない曜日があります、ご予約の上ご来院下さい。

**診察予約** 当センターは予約制になっております。受診の際はあらかじめ電話によりお申込みください。  
受付時間: 平日 午前8時30分から午後5時まで。  
電話番号: 048-722-1111 総合受付予約係

**面会時間**  
平日: 午後3時～午後8時  
土・日・祝日: 午後1時～午後8時